

◎人口減少と財政における今後の経営能力について

問

◎長島ダムのさらなる展開は

◎交通危険箇所から要望する道路工事の急務について



蘭田 靖邦 議員

質問 当町の財政状況は。

町長 平成25年度の町における実質赤字比率はマイナス11・4%連結実質赤字比率はマイナス13・9%とそれぞれ黒字経営で将来負担比率についてもマイナス37・1%であり財政が健全に運営されている。

質問 弾力性、經常収支比率の状況は。

町長 平成25年度で87%であり、かなり經常的な経費の率が高いと言わざるを得ないが合併後、平成18年には103・2%であり年々改善されている。

質問 人口減少からくる課題、町の対策、歳入を増やすための施策、新たな雇用を創出する手立ては。

町長 当地域の産業構造等、様々な要因はあるが、広域的対応を視野に置いた取り組みが

重要である。またストリー性を持った魅力ある観光地、ICTの一層の利活用の展開も必要である。

質問 一般財源の許容範囲で財政の力を使つた若者定住の方策は。

町長 個人的に感覚としてやりたい事業もある議会の中で議場で皆さんからの提言等があれば対応していく。

総務課長 財政担当の立場から平成32年迄の合併特例債起債可能額11億9千万程あります。が関連する事業であれば精査し財源を含めて考えていく。

質問 人口減少の鈍化と歯止めが根本にある地方創生総合戦略について。

企画課長 人口減少に歯止めをかけるためにも他市町村と違う町独自の特色のあるものを達成できるように関係機関のメンバーによる組

織の立ち上げも予定していき具体的な戦略を策定していく。

質問 町にあるものの再点検、長島ダムも含めアイデアを広く募集する提案箱の設置を。

町長 町民からの意見提言、職員からの提案等、窓口を開けて意見を聞くようにしている。何回かアンケート等もとって対応している。ご意見箱のものをと

言う話ですが検討をする。

質問 長島ダムの競技場と大村朱澄さんについて。

生涯学習課長 平成27年度において川根本町カヌー普及協議会の設立を予定している。大村さんの個人的な行動の範囲の中で協力頂けるようアプローチしていく。

町長 カヌーに対して思い入れは、やはりある。ある程度のこと迄

は、できるという思いもあり、これから長島ダムを利用した中では必要な事だ。大村朱澄さんには町の目玉的な位置づけで頑張ってもらいたい。

質問 国道362号改良改築における交差点の危険度について。

町長 一つの町で3箇所国道事業としての予算づけがされない事からクランクが、できる事となり、この様な形状は決して安全とは言えない上長尾区迄の全線開通を今迄以上に要望していく。

質問 町道高郷田野口停車場線の今後について。

建設課長 当初から上長尾バイパス、国道バイパスという扱いで長尾川の新橋のためのボーリングも実施しておりルート検討も数案あるようですが、確認はしていない。

答

- 財政規模に見合った財政運営を心がける
- 地域の活性化に重要な役割を果たす資源
- 交通の安全が早期に確保できるよう国、県へ要望していく

～ 議会活動報告 ～

小学校のRG授業見学・町内企業訪問

暮らしやすいまちづくりのための施策を考えていく上で、まず議会として町の現状や課題を知ることはとても大切なことです。そのため、町議会では議員の町内視察を随時行い、町の課題等を議員が共有し、議会活動に生かしていくよう努めています。今号では2月に行った二つの町内視察について報告します。



RG授業「体育」の見学

RG授業（学校間連携グループ授業）の見学

日時：2月18日 場所：中川根第一小

人口減少の中で川根本町は各小学校の児童・生徒数の減少によるさまざまな不安がある中で町の「子供は町の宝物」「教職員は町の財産」を理念とし、町教育委員会では小規模校の良さを生かし、町の財産を生かし小中6校を緩やかなひとつの学校と捉えて、「学力向上」「生きる力の育成」を図ろうというキャリア教育を基盤とした学校間連携授業を試行しています。その様子を見学しました。

小学校4校の生徒は1年生（算数）40人に教員6人、5年生（外国語）36人に教員6人、6年生（体育）38人に教員2人のグループ配置でした。各校生徒は普段の4倍もの人数の中での試行2回目の授業に戸惑いも感じられましたが、回数を重ねると慣れて来るものと思えます。40人学級になっても児童数6人程度当たり教員1人と恵まれた状況でした。

27年度からの能力や態度を育てることを基盤とした学校間の連携授業は子供や教職員の交流の中で子供たちの学力向上や人間性が向上されるものと期待されます。



学校間交流により児童の学力や人間性の向上も期待される(中川根第一小学校)

(小藪侃一郎)

町内企業訪問（ケーブルテクニカ㈱）の見学

日時：2月26日 場所：中川根工場

2月26日ケーブルテクニカ㈱中川根工場の視察を議員10名でさせて頂きました。石田社長はじめ、担当部長の案内で工場内の見学、説明を受けました。

当地域で最も規模の大きい会社であり、従業員の数も協力会社を含め460名（うち外国人62名）以上の人が働いています。町内からは370名近い人が雇用されており、大変地域に貢献されている企業であることを感じました。

各種センサー、メーターなど自動車関連部品が製造されており、大きな工場の中に機械が整然と並べられロボットによる自動生産が行なわれていました。また、環境方針、理念、指針に基づき工場排水の管理、測定



分別、再利用など自然環境に配慮した取り組みがされている(ケーブルテクニカ中川根工場)

(坂本 政司)